



肺炎球菌結合型ワクチン

B-02

どんな病気ですか？

肺炎球菌感染症は、肺炎球菌による感染症です。健康な子ども10人に2～3人は、鼻やのどの中に肺炎球菌をもっています。細菌が空気の通り道にくっつき、全身に広がります。

肺炎球菌は感染をおこした場所によって、さまざまな症状がみられます。発熱はよく見られる症状です。菌が血液に乗って、脳に感染すると髄膜炎をおこします。最初は熱やきげんが悪いなど、かぜの症状と区別するのが難しいですが、その後、嘔吐、けいれんや意識障害を伴うこともあります。髄膜炎になると重い後遺症が残ったり、死亡することがあります。そのほか、肺や関節、骨などに感染することもあります。

肺炎球菌感染症の診断には、細菌の培養検査が必要です。血液や髄液など、本来菌が見つからないところから肺炎球菌が検出されると「侵襲性（しんしゅうせい）肺炎球菌感染症」と診断されます。この感染症は、乳幼児および高齢者において頻度が高い病気です。

肺炎球菌には100以上の型（血清型）があり、重い病気をきたしたり、抗菌薬のききにくい型があることが知られています。



標準スケジュール

● 生後2か月～7か月未満に始める場合 接種回数 6回

- 
- 1回目 生後2か月～6か月
 - 2回目 前回から4週間（27日）以上あけて
 - 3回目 前回から4週間（27日）以上あけて
 - 4回目 前回から60日以上あけて、かつ12か月以上～15か月未満

初回免疫の開始が、標準接種スケジュールより遅れた場合は、以下の方法で接種します。

標準スケジュールより遅れた場合

● 生後7か月～12か月未満に始める場合 接種回数 3回

- 
- 1回目 生後7か月～11か月
 - 2回目 前回から4週間（27日）以上あけて
 - 3回目 前回から60日以上あけて1歳以降

● 1歳～2歳未満で始める場合 接種回数 2回

- 
- 1回目 生後1歳～2歳未満
 - 2回目 前回から60日以上あけて

● 2歳～5歳未満で始める場合 接種回数 1回

定期接種対象年齢を超えたお子さんでも、肺炎球菌感染症にかかるリスクが高いと考えられる場合は、接種が可能です。例えば、免疫不全状態である場合や、脾臓摘出術を受けた場合などです。接種回数は1回で筋肉内注射となります。

ワクチンをいつ、何回接種しますか？

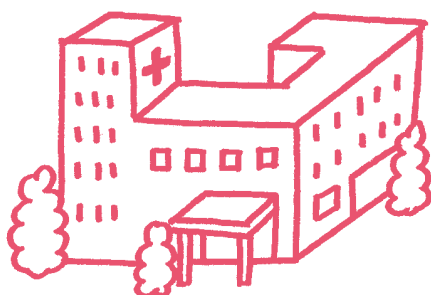
定期接種としての対象は生後2か月以上5歳未満です。標準接種スケジュールでは2か月以上7か月未満で初回接種を開始します。初回免疫として、27日以上の間隔で3回接種し、追加接種として3回目接種から60日以上の間隔をあけて、かつ生後12か月以上（標準的には12か月以上15か月未満）に1回接種を行います。計4回接種します。

🐣 ワクチンの効果

肺炎球菌は100以上の（血清型）に分類されていますが、現在日本で使用されている肺炎球菌結合型ワクチンは、主な15種類あるいは20種類の血清型の肺炎球菌による「**侵襲性（しんしゅうせい）肺炎球菌感染症**」の予防に効果があります。

肺炎球菌結合型ワクチンは2013年4月から定期予防接種となり、接種率が上がり患者数が減少しました。

日本の調査では、2008年から2010年の3年間で平均25.0人（5歳未満10万人あたり）の「**侵襲性肺炎球菌感染症**」が報告されていましたが、ワクチンが普及した2013年には10.8人まで減少しました。ワクチンでカバーされる血清型は大幅に減少していますが、一方で、ワクチンでカバーされていない血清型による感染症が増えていて、今後の課題となっています。



🐣 ワクチンの副反応

肺炎球菌結合型ワクチンは安全なワクチンで、世界の多くの子どもたちに接種されています。

注射した場所が赤くなったり、はれたりすることはよく起こり、約70%のお子さんに見られます。これらの局所の反応は軽く、自然に回復します。全身的な副反応として、発熱、きげんが悪くなる、うとうとするなどが、約10～20%認められます。



🐣 どのように感染しますか？

肺炎球菌は、飛沫または接触感染によって人から人へ感染が広がります。

菌は空気の通り道に入り込み、中耳炎や肺炎などを引き起こすことがあります。まれに粘膜から血液の中に入り、**髄膜炎**（脳を包んでいる膜に炎症がおこる病気）、**菌血症**（細菌が血液の中に入った状態）、**敗血症**（細菌感染症によって、全身の状態が悪くなる病気）などの重い感染症となり、これらは「**侵襲性肺炎球菌感染症**」と呼ばれています。



飛沫感染
咳やくしゃみで飛び散った病原体を吸い込んで感染

接触感染
皮膚やおもちゃなどに付いた病原体に触れて吸い込むことで感染

♥️ ワクチンが接種できない人は誰ですか？



**接種を受けることができない、
いわゆる接種禁忌の人**

- 明らかな発熱を認めた場合
- 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- ワクチンの成分またはジフテリアトキソイドによってアナフィラキシー（重いアレルギー反応）を起こしたことがある場合
- 上記以外で予防接種を行うことが不適当な場合



**接種を受けるにあたって注意が必要な人
接種前にかかりつけ医によく相談しましょう**

- 心臓・血管・腎臓・肝臓・血液に持病がある人、発育に障害がある人
- これまでの予防接種で接種後2日以内に発熱や全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を認めた人
- 過去にけいれんの既往がある人
- 過去に免疫不全の診断がなされている人
- 先天性免疫不全症の病気をもっている近親者がいる人
- ワクチンの成分またはジフテリアトキソイドに対してアレルギー反応を起こすおそれのある人